

# 各団体の主要な取組

# 目次

## 【岩手県】

取 組	ページ
機運醸成等の取組について(東京2020大会2年前イベント外)	P.4
オリンピック聖火リレー及び復興の火について	P.10
・「東京2020大会関連プログラム」の活用促進について ・大会における農林水産物の利活用に向けた取組について ・地域の魅力発信(三陸防災復興プロジェクト2019外)	P.11
ラグビーワールドカップ2019 釜石開催に係る準備状況について	P.12

## 【宮城県】

取 組	ページ
・聖火リレー ・「復興の火」の展示	P.16
「復興『ありがとう』ホストタウン」の県内の取組	P.17
都市ボランティアでの復興に係る取組	P.18
大会気運の盛り上げ～平成30年度の県の主な取組	P.19

## 【福島県】

取 組	ページ
聖火リレー	P.20
「復興『ありがとう』ホストタウン」の取組	P.21
機運醸成～平成30年度の取組	P.22

## 【内閣官房】

取 組	ページ
「復興ありがとうホストタウン」等の取組状況	P.23
復興オリンピック・パラリンピックに係る政府の取組	P.27

## 【復興庁】

取 組	ページ
・第5回 I O C 調整委員会公式夕食会にて被災地産食材等の魅力を発信 ・第1回ワールド・プレス・ブリーフィングレセプションにて被災地の現状や被災地産食材の魅力を発信 ・フィンランド等において福島県産農水産物の安全性についての情報を発信 ・A N O C 総会レセプションにて復興の情報を発信	P.28
・J ヴィレッジにおいて復興スポーツイベントの実施 ・選手村等における被災地産食材の活用に向けた支援の実施 ・在京大使館に向けた情報発信 ・「復興ポータルサイト」において復興五輪に関する情報を発信 ・復興五輪連絡調整会議を設置	P.29

## 【スポーツ庁】

取 組	ページ
・被災地における競技会場の施設整備を支援 ・1964年東京大会の炬火台の巡回・展示 ・地域復興の意識を高めるオリパラ教育の推進	P.30

# 目次

## 【日本オリンピック委員会】

取 組	ページ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 救援医療チーム派遣</li> <li>・ 救援物資</li> <li>・ メダリスト、オリンピックによる避難所訪問</li> <li>・ オリンピックコンサートでのチャリティー活動</li> <li>・ JOC公式ホームページ等で競技団体とともに救援募金</li> <li>・ 寄付プロジェクト「エール FOR 日本」</li> <li>・ JOCからの寄付</li> <li>・ 海外からの支援</li> <li>・ 第26回ユニバーシアード競技大会で支援への感謝メッセージを発信</li> </ul>	P.31
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被災県に在籍する若手選手を国際競技大会に派遣</li> <li>・ 応援ありがとうIN東北（オリパラ合同パレード等）</li> <li>・ メダリスト、オリンピックによる復興支援ソング「花は咲く」映像の発信とオリンピックデーフェスタでの合唱</li> </ul>	P.32
オリンピックデー・フェスタ～スポーツから生まれる、笑顔がある～	P.33

## 【日本障がい者スポーツ協会】

取 組	ページ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リオ2016パラリンピック競技大会壮行会におけるビデオメッセージ</li> <li>・ 共生スポーツ祭りの開催</li> <li>・ 東北地区での競技大会開催</li> <li>・ ジャパンスポーツフェスタin岩手を開催</li> </ul>	P.34

## 【東京都】

取 組	ページ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポーツ交流事業</li> <li>・ アスリート派遣事業</li> <li>・ 未来（あした）への道1000km縦断リレー</li> <li>・ 風化防止イベント</li> </ul>	P.35
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリンピック・パラリンピックフラッグツアー</li> <li>・ 被災地でのライブサイト</li> <li>・ 被災地復興支援映像</li> <li>・ 海外メディアによる被災地取材ツアー</li> </ul>	P.36
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被災地子供観戦招待</li> <li>・ 復興祈念植樹</li> </ul>	P.37

## 【東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会】

取 組	ページ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宮城県において、オリンピック聖火の到着式を実施</li> <li>・ 被災地での「復興の火」の展示</li> <li>・ 被災地でのオリンピック聖火リレー実施</li> <li>・ 被災地での競技開催</li> <li>・ 復興モニュメント（仮称）の設置</li> <li>・ 開閉会式の全体コンセプトの一つに「復興」</li> <li>・ 被災地メディアツアーの企画【予定】</li> </ul>	P.38
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リオジャパンハウスでの発信</li> <li>・ リオ2016大会フラッグハンドオーバーセレモニーでの発信</li> <li>・ 被災地でのライブサイト実施</li> <li>・ 東京2020参画プログラムを通じた機運醸成</li> </ul>	P.39
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第5回IOC調整委員会公式夕食会にて、被災地の魅力を発信</li> <li>・ 第1回ワールドプレスブリーフィングレセプションにて被災地の食と文化を発信</li> <li>・ 飲食提供に係る基本戦略内に「飲食による復興支援」</li> <li>・ 東京2020NIPPONフェスティバルでの発信</li> <li>・ 東京2020参画プログラム～文化オリンピックナイトの実施</li> </ul>	P.40
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被災地での理事会開催</li> <li>・ 被災地への東京2020マスコット訪問</li> <li>・ 500日前期間中に競技体験イベントの実施【予定】</li> </ul>	P.41

## ■ 機運醸成等の取組について

### 1 機運醸成イベント等の実施

#### (1) 東京2020大会 2年前イベント「いわてSPORTS POWER プロジェクト2018」

「復興五輪」を理念に掲げる東京2020大会の県内機運醸成のため、組織委員会との共催により、2年前イベントを開催

- ・ 期日：平成30年10月8日      ・ 会場：岩手県営運動公園
- ・ 来場者数：約2万人（同日同会場で併催の「2108スポーツフェスティバル」を含む来場者数）
- ・ 主な内容：アスリートトークショー、東京五輪音頭-2020-披露  
 ※ 東京2020大会マスコット「ミライトワ&ソメイティ」によるステージほか



#### (2) 未来への道1000km縦断リレー2018（ゲストランナーとともに、沿岸市町村をランニング・自転車で通過）

※東京都と連携

- ・ 青森県～洋野町～久慈市役所（7月25日）  
 ゲストランナー：青木愛（シンクロナイズドスイミング）、中村真衣（競泳）、伊藤剛臣（ラグビー）
- ・ 久慈市役所～野田村～普代村～田野畑村～宮古市役所～宮古地区合同庁舎（7月26日・27日）  
 ゲストランナー：青木愛（シンクロナイズドスイミング）、中村真衣（競泳）
- ・ 宮古地区合同庁舎～山田町～大槌町～釜石市～大船渡市～陸前高田市総合交流センター「夢アリーナたかた」（7月27日・28日）  
 ゲストランナー：鹿島文博（体操）、山口美咲（競泳）が宮古市からスタート  
 山本博（アーチェリー）、星奈津美（競泳）、畑中みゆき（フリースタイルスキー）が陸前高田市をスタート



(3) オリンピックデー・フェスタ ※JOCと連携

・平成30年7月8日(日)「オリンピックデー・フェスタ in 紫波」

参加オリンピックアン…伊藤華英(競泳)、海堀あゆみ(サッカー)、  
大山加奈(バレーボール)、ヨコ・ゼッターランド(バレーボール)  
藤野智一(自転車)、桑水流裕策(ラグビーフットボール)



・平成30年8月26日(日)「オリンピックデー・フェスタ in くずまき」

参加オリンピックアン…中野照子(ビーチバレー)、熊田康則(バレーボール)  
永田睦子(バスケットボール)、森田智己(競泳)  
黒岩敏幸(スピードスケート)、足立友里恵(アイスホッケー)



・平成30年9月1日(日)「オリンピックデー・フェスタ in 大槌」

参加オリンピックアン…宮下純一(競泳)、坂本清美(バレーボール)  
田中琴乃(新体操)、鈴木靖(スピードスケート)  
淡路卓(フェンシング)、両角友佑(カーリング)  
両角公佑(カーリング)



- ・平成30年9月30日(日)「オリンピックデー・フェスタ in 雫石」  
 参加オリンピック人…堀畑裕也(競泳)、伏見知何子(スノーボード)  
 松井裕好(ボート)、中村亜実(アイスホッケー)  
 ヨーコ・ゼッターランド(バレーボール)  
 千田健太(フェンシング)、小舘操(バイアスロン)



- ・平成30年11月10日(土)「オリンピックデー・フェスタ in 洋野」  
 参加オリンピック人…塚原直貴(陸上)、宮下純一(競泳)  
 黒岩敏幸(スピードスケート)、中村亜実(アイスホッケー)  
 井上智裕(レスリング)、杉本美香(柔道)  
 海淵萌(カヌー)



## 2 ホストタウン等について

### (1) 現在の登録状況

- ・「ホストタウン」3市1町（盛岡市、遠野市、八幡平市、紫波町）
- ・「復興『ありがとう』ホストタウン」5市2町1村  
（大船渡市、花巻市、陸前高田市、釜石市、野田村、宮古市、雫石町、山田町）
- ・「共生社会ホストタウン」1市（遠野市）  
    ➡**現在、計12市町村が登録**（ホストタウンと共生社会ホストタウンで重複）
- ・事前キャンプ4市  
    花巻市（日本代表ボート）、盛岡市（カナダ水球）、八幡平市（ルワンダ陸上他）  
    遠野市（ブラジル視覚障害5人制サッカー）

### (2) 今年度の主なホストタウン事業

- 【盛岡市】 水球カナダ代表と日本代表との男女合同合宿（H30.6～8）
- 【大船渡市】 成田市と共同のアメリカ陸上代表チームによるクリニック（H30.10）
- 【釜石市】 オーストラリア小学生と地元小学生とのラグビー交流事業（H30.9）
- 【野田村】 台湾楽団員との友好演奏会（H30.7）
- 【雫石町】 ドイツのパラリンピック金メダリスト講演会（H30.10）



### 3 東京2020教育プログラム「ようい、ドン! スクール」認証校

オリンピックパラリンピックやスポーツの価値、多様な人々との交流、日本の伝統文化の学習などを通してオリンピック・パラリンピック教育を実施している学校を認証。組織委員会が実施。

- ・ マスコット投票による認証校 239校
- ・ オリンピック・パラリンピックムーブメントによる認証校 20校 計259校

### 4 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業（教育地域拠点）（平成30年度）

平成30年度は推進校の公募をし、小学校4校、中学校3校、高等学校3校、特別支援学校1校にオリンピック・パラリンピアン等を派遣し講義・実技等の授業を実施。スポーツ庁が実施。

また、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター指導の下、事前セミナー、実践報告会を開催。

○派遣したオリンピック・パラリンピアン等(平成29年度～平成30年度)

星奈津美（競泳）、福田正博（サッカー）、横澤高德（チェアスキー）、  
千田健太（フェンシング）、根木慎志（車椅子バスケットボール）  
鹿島丈博（体操）、初瀬勇輔（視覚障がい者柔道）、田中和仁（体操）、  
大山加奈（バレーボール）、宮下純一（競泳）、田中 光（体操）  
馬淵智子（ソフトボール）、杉本美香（柔道）



## 5 企業合同物産展『JAPAN市』への参加

- ・企業合同物産展『広島JAPAN市』  
東北・九州復興編（平成30年4月6～8日） 旧広島市民球場跡地 FISE WORLD SERIES Hiroshima 2018会場内
- ・企業合同物産展『札幌JAPAN市』  
東北・九州復興編（平成30年7月24・25日） 札幌駅前エリア
- ・企業合同物産展『大阪JAPAN市』  
東北・九州復興編（平成30年10月27日） ヤンマースタジアム長居
- ・企業合同物産展『東京JAPAN市』  
東北・九州復興編（平成30年11月15・16日） 日経ビル



▲『札幌JAPAN市』記念撮影時  
(後列左は岩手県キャラクターの「そばっち」)

### ■ 機運醸成等についての今後の主な取組

これまでの取組を継続・発展させ、新たな取組を実施します。

- 1 オリパラ等経済界協議会と連携して、ホストタウン市町村参加のホスト  
タウンPRイベントの実施（平成31年3月）
- 2 東京2020大会1年前イベントの実施
- 3 旧聖火台の巡回展示 期間：2019年5月～7月中旬



▲『東京JAPAN市』でのさんさ踊りの様子

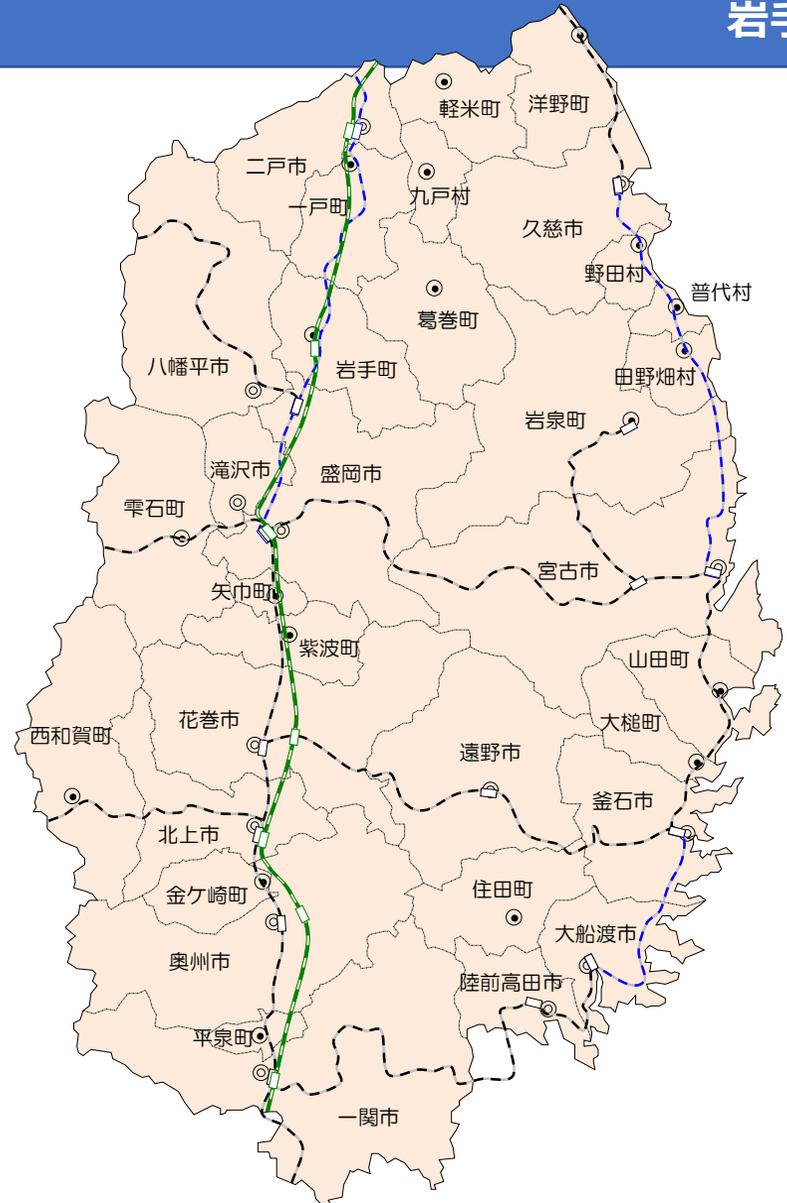
## ■ オリンピック聖火リレー及び復興の火について

### 1 聖火リレー

- (1) 実施期間 : 2020年6月17日～19日 ※3日間
- (2) 現在の状況 : リレールート案等の検討のため、2018年9月に「東京2020オリンピック聖火リレー岩手県準備委員会」を設置  
「復興五輪」にふさわしいルートとなるよう調整を行っている

### 2 復興の火

- (1) 実施期間 : 2020年3月22日～23日
- (2) 現在の状況 : 本県の復興の象徴となるような展示イベントを検討引き続き、組織委員会をはじめ、市町村、関係機関と連携を図っていく



## ■ 「東京2020大会関連プログラム」の活用促進について

- ・ 東京2020参画プログラム認証事業県内実施件数…1,100件
- ・ beyond2020プログラム認証事業件数… 37件



## ■ 大会における農林水産物の利活用に向けた取組について

### 1 官民一体となった取組の推進

「いわて東京オリ・パラ等県産農林水産物利活用促進協議会」を設立（H30.2）し、GAP推進や食材利活用促進など5つのプロジェクトチームにより、官民一体となった取組を展開

### 2 GAPの取組推進

岩手県版GAPの創設（H29.9）や、GAP指導體制の強化により、生産者のGAPの取組を推進

⇒ 県ブランド米「金色の風」「銀河のしずく」の産地でGAPの取組が活発化

### 3 農林水産物の魅力発信

- ・ IOC調整委員会の公式夕食会（H29.12）や政府中央合同庁舎8号館職員食堂（H30.9）で被災3県の食材を活用した料理の提供
- ・ 提供可能な食材を県HPで紹介

## ■ 地域の魅力発信

### 1 「三陸防災復興プロジェクト2019」（2019年6月1日～8月上旬にかけて実施）

- ・ 三陸地域を舞台とし、「防災の啓発と伝承」「復興の現状の発信と支援への感謝」「つながり・関係の強化」「地域力の強化」「新たな交通ネットワークの活用」の5つをテーマにした複合イベント

### 2 東北復興プログラムへの参画（組織委員会主催「東京2020NIPPONフェスティバル」）

- ・ 東京2020大会の公式文化プログラムとして、我が国の誇る文化を国内外に発信



▲達増知事による県産食材や特産品のPR（IOC調整委員会の公式夕食会）



## ■ラグビーワールドカップ2019 釜石開催に係る準備状況について

### 1 大会概要／釜石での試合日程等

#### (1) 大会概要

- **期間** 2019年9月20日(金)～11月2日(土) [44日間]
- **会場** 札幌市／岩手県・釜石市／埼玉県・熊谷市／東京都／神奈川県・横浜市／静岡県／愛知県・豊田市  
大阪府・東大阪市／神戸市／福岡県・福岡市／熊本県・熊本市／大分県 [全国12都市]

#### (2) 釜石会場対戦カード

2019. 9.25 (水) 14 : 15～ **フィジー**  対 **ウルグアイ** 

2019.10.13 (日) 12 : 15～ **ナミビア**  対 **カナダ** 

#### (3) 釜石会場のチケット販売

- 第一次一般販売（抽選） 2018.9.19～11.12（終了）
- 第二次一般販売（先着） 2019.1.19～3.31（完売により終了）
  - 第三次一般販売（先着） 2019.5月～（予定）

#### (4) 公式ボランティア募集（募集終了）

釜石会場 約400～800人を募集 約700人の採用を決定

#### (5) 公認チームキャンプ地

盛岡市：ナミビア  
釜石市：ウルグアイ、カナダ  
北上市：ウルグアイ  
宮古市：フィジー、ナミビア



## 2 新スタジアム整備概要

- (1) 名称 釜石鵜住居復興スタジアム（常設部分は2018年7月完成）
- (2) 整備主体 釜石市
- (3) 座席数 16,000席（常設6,000席、仮設10,000席）
- (4) 特徴
- 東日本大震災津波被災地唯一の会場であること
  - 12会場中唯一の新設スタジアムであること
  - “北の鉄人”と呼ばれた新日鐵釜石ラグビー部の往年の伝統などにより、ラグビーが地域の誇りとして根付いている地域であること
  - 常設席は、2017年5月に発生した釜石市尾崎半島での大規模林野火災の被害木の利用や、岩手県北上市（国立競技場寄贈）、熊本県、東京ドームからそれぞれ寄贈を受けたイスを活用



### 3 釜石鵜住居復興スタジアムオープニングDAY

#### (1) 開催趣旨（抜粋）

- ① 復興のシンボルとなるスタジアムが完成したことを祝うとともに、復興そしてスタジアム整備に支援いただいた全ての方に感謝の意を示す
- ② RWC2019釜石開催に向けて開催機運を高めるとともに、大会本番の円滑な運営に資するため、メモリアルマッチ等の実施を通じ大会運営上の課題を把握する

#### (2) 概要

- ① 開催日等 平成30年8月18日（土）16:30～  
 場 所 釜石市民ホール  
 内 容 前夜祭（三陸防災復興フェスティバル外2019プレイイベント）  
 入場者数 約700人
- ② 開催日等 平成30年8月19日（日）  
 場 所 釜石鵜住居復興スタジアム  
 内 容
  - ・ 9:00～ 竣工式
  - ・ 10:00～ キッズラグビー
  - ・ 12:00～ レジェンドマッチ（新日鐵釜石OB vs 神戸製鋼OB）
  - ・ 13:00～ オープニングイベント  
 平原綾香氏『Jupiter』歌唱  
 EXILEメンバー  
 『ダンスで日本を元気に！夢の課外事業 中学生Rising Sun Project 2018』
  - ・ 14:00～ メモリアルマッチ  
 釜石シーウェイブスR F C vs ヤマハ発動機ジュビロ
 入場者数 6,530人 ※パブリックビューイング（釜石市民ホール）約500人



#### 今後の主な予定

- 2019.7月頃 スタジアム仮設部分10,000席完成
- 2019.7.27 16,000席でのテストイベント  
（パシフィック・ネーションズカップ  
日本代表 対 フィジー代表）
- 2019.8月 シティドレッシング（都市装飾）開始
- 2019.9月 大会開幕（開催期間：9月20日  
～11月2日）
- 2019.9月 公式イベントスペース『ファンゾーン』設置
- 2019.9.25 フィジー 対 ウルグアイ
- 2019.10.13 ナミビア 対 カナダ

## キックオフ宣言～未来への船出（全文）

わたしは、釜石が好きだ。海と山に囲まれた、自然豊かな町だから。わたしは、釜石が好きだ。空気も人の心も、温かくてきれいなまちだから。わたしは、ラグビーが好きだ。中学2年生のとき、2015年のラグビーワールドカップイングランド大会を現地で観戦して、スタジアムの雰囲気とその迫りに圧倒されたから。わたしは、ラグビーが好きだ。試合後、ファン同士が敵味方関係なく握手をし合い、一緒になってゴミ拾いをしている姿に感銘を受けたから。

7年前の3月11日。小学校3年生だった私は、算数の授業を受けていた。防寒着を来て、校舎の5階へ逃げた。土砂崩れが起きて、もっと高くへ逃げた。うしろを振り返れば、鵜住居を飲み込む津波が見えたかもしれない。けれど、私は「とにかく逃げなきゃ」と焦っていた。たまたま通りがかったトラックに乗って、まちの体育館へ避難した。

1列に並んで2人ずつ分けたおせんべい。コップ一杯の水。そのときの自分の気持ちはうまく思い出せない。数日経っておにぎりを1つ食べたときに、生きていることのよろこびをじんわりと感じたことは憶えている。

2019年。大好きな釜石のまちで、大好きなラグビーの国際大会が行われる。そして、このスタジアムは、完成した。そして、釜石は、世界とつながる。いま、私がしなければならないことは、あのとき、釜石のために支援をしてくれた日本中の、そして世界中の人たちにあらためて感謝の想いを伝えることだと思う。このスタジアムがつくられたのは、私の小学校があった場所。入学するはずだった中学校があった場所。そして、離れ離れになってしまった友だちと、また会える大切な場所。

今日は、そんな思いのつまったスタジアムが生まれた日。日本中の釜石を愛する人たちと、世界中のラグビーを愛する人たちと、この日を迎えられたことを祝い、そして感謝したい。

Thank you everyone in the world for your support.  
We have recovered and will move on wards from the earthquake.  
We are looking forward to seeing you in Kamaishi next year.

このスタジアムはたくさんの感謝を乗せて、いま、未来へ向けて出航していく。

2018年8月19日 釜石高校2年  
洞口 留伊



## 聖火リレー

宮城県内は、2020年6月20日から22日に通過

## 《聖火リレールート選定の考え方》

○東京2020大会は「復興五輪」と位置付けられていることから、その意義に鑑み、聖火リレーが沿岸被災地の現状や、復興支援への感謝と復興した姿を世界に発信する機会となるよう、「復興五輪」を体現するルートを検討する。

○2018年9月「東京2020オリンピック聖火リレー宮城県実行委員会」設立

## 「復興の火」の展示

宮城県内は、2020年3月20、21日に展示

## 《展示の関する考え方》

○聖火リレーと同様に、被災地の現状や、復興支援への感謝と復興した姿を世界に発信することにふさわしい場所での展示を検討する。

## 「復興『ありがとう』ホストタウン」の県内の取組

県内では、8市町が「復興『ありがとう』ホストタウン」となっている。

- |            |             |              |          |
|------------|-------------|--------------|----------|
| ●仙台市－イタリア  | ●石巻市－チュニジア  | ●気仙沼市－インドネシア | ●名取市－カナダ |
| ●岩沼市－南アフリカ | ●東松島市－デンマーク | ●亘理町－イスラエル   | ●加美町－チリ  |

## 県内「復興『ありがとう』ホストタウン」の主な取組

### 【仙台市】

H29.9、イタリアプロサッカー2部リーグ（セリエB）所属のU-19代表チームが仙台育英高校、ベガルタ仙台ユースと親善試合を実施。親善試合後、震災遺構の荒浜小学校を見学。



荒浜小学校の見学の様子

### 【東松島市】

H30.8、産業交流事業として、「食」をテーマとしたデンマークでのサマースクールに東松島市を代表する産業の海苔漁師を派遣し、養殖についての講義を行った。また、食や自然に関する意見交換を通し、相互理解を深めた。



海苔養殖についての講義の様子

### 【亘理町】

H30.12、駐日イスラエル大使杯記念交流柔道大会を開催。駐日イスラエル大使館領事が観戦するなか、35人の子ども達が熱戦を繰り広げた。

**都市ボランティアでの復興に係る取組**

(平成31年4月から募集開始)

**◆ 「東日本大震災語り部ボランティア」**

- 県が募集する都市ボランティアの活動区分の一つとして、県の「玄関口」である仙台空港・仙台駅の仮設ブースにおいて、東日本大震災の記憶や復旧・復興に関する情報の提供を行う「東日本大震災語り部ボランティア」の募集を実施。
- 「東日本大震災語り部ボランティア」の活動により、大会時に国内外から訪れる観客等へ、復興情報の発信や被災地への来訪を促進することで、震災記憶の風化の防止に務めるとともに、震災記憶の伝承につなげる。

**◆ 多様な参加者の活躍促進**

- 県が募集する都市ボランティアの対象を高校生以上とする。
- ボランティアに参加する年齢を下げることにより、幅広い世代の人が「復興五輪」に関わり、大会の成功に貢献していただける仕組みをつくる。

## 大会気運の盛り上げ

平成30年度の県の主な取組

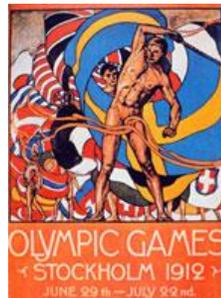
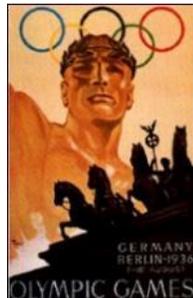
## ◆ 2年前イベントin宮城（組織委員会協力）

東京大会2年前を記念して、7月28日（土）に仙台市青葉区「せんだい青葉山交流広場」において、2000年シドニー五輪サッカー代表である平瀬智行氏によるトークショーやサッカー体験等（キックターゲット、ブラインドサッカー等）を行うイベントを開催。



## ◆ 歴代大会ポスター展（公財東京都スポーツ文化事業団協力）

県図書館において、8月28日（火）から9月24日（月）まで第1回アテネ大会からの夏季オリンピック公式ポスターの展覧会を開催。



## ◆ 1964東京大会聖火リレー新聞報道展（河北新報社協力）

1964東京大会聖火リレーを報じる新聞記事、写真等の展覧会を県石巻・気仙沼合同庁舎のほか、各市町村で開催。



## ◆ 東京五輪音頭-2020-の放送、CD等の貸出

大会まで2年となる7月から8月までの間、東京五輪音頭-2020-を仙台市内中心部商店街及び県庁舎内等で放送。また、町内会、各団体等へのCD、DVDの貸し出しを実施。



## 聖火リレー

2020年3月26日に福島県から出発（3月28日まで）

## 聖火リレーの検討状況

- 8月24日に「東京2020オリンピック聖火リレーふくしま実行委員会」を設立し、県内ルート案、ランナー選出、警備等について協議。

【構成委員】①福島県知事（委員長）、②福島県市長会長、③福島県町村会長、  
④福島県警察本部長、⑤福島市消防長、⑥福島県体育協会会長（副委員長）、  
⑦福島県教育長

### 《ルート選定の基本的な考え方》

被災地の現状を発信でき、かつ県内のバランスを重視しながら、復興五輪にふさわしい聖火リレーのスタートとなるようなルートを選定することが必要。

※「復興の火」の巡回展示については、聖火リレールートと一体的に検討。

「復興『ありがとう』ホストタウン」の取組

登録団体名	相手国・地域	取組もうとする事業の概要	決定年月日
南相馬市	ジブチ、台湾、米国、韓国	<ul style="list-style-type: none"> <li>相馬野馬追祭、マラソン大会に招待するほか、市内のスポーツ施設で、地元のごどもたちのスポーツ交流を実施。伝統ある市の文化民俗（祭・食）等を体験する交流を実施。</li> <li>ジブチ共和国とは陸上・空手道競技の指導者・ごどもたち同士の交流を実施。台湾とは野球競技の指導者・ごどもたちを招待し交流。米国とはサーフィン競技、韓国とは柔道競技に関して交流。</li> <li>東京大会に参加する各国選手団の頑張りを会場で応援し、併せて市にお招きして歓迎・慰労等の会を開催。</li> </ul>	2017.11.17 (第1次)
本宮市	イギリス	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごどもたちが英国を訪問し、同市の食、生産物、暮らしの状況を伝え、交流を深める。</li> <li>英国のごどもたち来てもらい、「プリンス・ウイリアムズ・パーク」等訪問、収穫祭体験など交流を行うとともに、テレビ電話などで学校単位による相互発信を実施。</li> <li>出場選手等に、応援団として郷土食や本市の日本酒・お菓子等の特産品を届ける。</li> </ul>	2017.11.17 (第1次)
北塩原村	台湾	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流相手の中学生を招き、村の中学生と交流。</li> <li>震災後にお世話になった舞踊団の皆様にも来村していただきたい。当時、慰問を受けた避難者の方も招いて、交流会などを実施。</li> <li>村で盛んなバドミントン、卓球競技の台湾代表選手を、大会終了後に村に招き、交流会等を実施。</li> </ul>	2017.11.17 (第1次)
飯舘村	ラオス	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラオスのごどもたちや在京ラオス大使館の方々を学校行事や村のイベントに招待。</li> <li>飯舘村では震災前より、福島県で行われる市町村対抗福島駅伝に毎年参加しており、陸上に関する講演、指導等の交流を実施。</li> </ul>	2017.11.17 (第1次)
喜多方市	米国	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウィルソンビル市の中高生等を招き、スポーツや食、文化などの体験交流を通じて、福島県及び本市の復興状況を発信。</li> <li>相手国のボート協会や体操協会などの競技団体やスポーツ団体の関係者を招き、本市の体育施設等の視察や、食、文化などのおもてなしを通じて、大会後のスポーツ交流事業の実施を働きかける。</li> </ul>	2018.7.27 (第5次)



南相馬市、ジブチ、台湾のごどもたちのサッカー交流



イギリスオリンピック委員会CEOを迎える本宮市生徒

機運醸成

平成30年度の取組

■ 日米対抗ソフトボール（福島あづま球場）

福島あづま球場で日米TOP代表による国際親善試合を開催し、県内外から7,000人を超える観衆が詰めかけた。引き続きあづま球場で行われた強化合宿では、県産品を使った食事の提供や地元小学生との交流も行われた。



■ 2年前イベント

野球・ソフトボール日本代表の両監督をお招きし、「世界と戦うトップアスリートを目指して」をテーマにパネルディスカッションを開催。質問コーナーやサインボール抽選会など子どもたちとの交流も図られた。



■ 楽天野球団との連携事業（親子野球教室、県外PR）

楽天野球団と連携し、県内各地で未就学児を対象とした親子野球教室を開催。また、県内の子どもたちを「キッズアンバサダー」に任命し、楽天イーグルスのホーム戦で野球・ソフトボール競技県内開催をPRした。



■ 555日前イベント（デイカウンターお披露目）

県内高校生が制作したポスター入りデイカウンターを県内主要駅に設置。オリパラ教育推進校（小学校）で開催したお披露目式には室伏スポーツディレクターや東京2020マスコットも参加し、子どもたちの笑顔が溢れた。





宮城県加美町のゆるキャラ「かみ〜ご」とのコラボ

2019年2月7日

被災地復興支援連絡協議会資料

ホストタウン

HOST TOWN

# 「復興ありがとうホストタウン」等の取組状況



(福島県本宮市 地元中学生等によるロンドン訪問 2018年7月)



(岩手県釜石市 地元小学校と豪州小学生の交流 2018年9月)

## 内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局

[http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020\\_suishin\\_honbu/hosttown\\_suisin/index.html](http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/hosttown_suisin/index.html)

# 「復興ありがとうホストタウン」について（2017.9～）

被災3県（岩手県、宮城県、福島県）の自治体を対象に、震災時に支援してくれた海外の国・地域に復興した姿を見せつつ、住民との交流を行い、2020年に向けた交流を行う「復興ありがとうホストタウン」を設置

## ○大会参加国・地域の方々との交流

- ・被災時に現場に入って支援してくれた各国のレスキュー隊員や、支援物資等を送ってくれた方々など、復興に貢献頂いた方々を被災地に招いた交流を行う。
- ・交流の機会に復興のプロセスの説明や、各地の被災地ツアーの参加などを行い、被災地の過去と現在の紹介を実施。



2018.1 岩手県野田村の中学生が台湾ロータリークラブに感謝の気持ちを伝える。

## ○大会参加者との交流

- ・大会中は、相手国・地域の選手を応援し、大会後に大会に参加した相手国・地域の選手（オリンピック・パラリンピアン）に訪問してもらう。



2018.2 ジブチに福島県南相馬市の空手指導者が訪問。



2018.3 岩手県大船渡市に震災時に救助活動をしてくれた米国救援隊員が訪問。

## ○日本人オリンピック・パラリンピアンとの交流

- ・従来のホストタウンと同様の取組を実施



2018.1 宮城県東松島市長が支援してくれたデンマーク企業を訪問



2018.2 岩手県花巻市で米国人元野球選手が野球教室を実施



2018.3 岩手県釜石市に震災時にお世話になった豪州人ラグビー選手が訪問

【2019年2月7日時点の決定自治体】 21件

- ・岩手県；宮古市（シンガポール）、大船渡市（米国）、花巻市（米国・オーストラリア）、陸前高田市（シンガポール）、釜石市（オーストラリア）、雫石町（ドイツ）、山田町（オランダ）、野田村（台湾）
- ・宮城県；仙台市（イタリア）、石巻市（チュニジア）、気仙沼市（インドネシア）、名取市（カナダ）、岩沼市（南アフリカ）、東松島市（デンマーク）、亘理町（イスラエル）、加美町（チリ）
- ・福島県；喜多方市（米国）、南相馬市（ジブチ、台湾、米国、韓国）、本宮市（英国）、北塩原村（台湾）、飯舘村（ラオス）

# 大臣と被災3県のホストタウン自治体との意見交換会

- 2018年9月、被災3県（岩手県、宮城県、福島県）において各管内のホストタウン自治体と東京オリンピック・パラリンピック担当大臣との意見交換会を開催。
- 各ホストタウン・各復興ありがとうホストタウンの取組について情報の共有を図るとともに、今後の更なるホストタウンの推進に向けて活発な意見交換がなされた。



2018年9月11日 宮城県  
出席自治体：石巻市、気仙沼市、白石市、東松島市、蔵王町、柴田町、亶理町



2018年9月13日 福島県  
出席自治体：福島市、郡山市、いわき市、田村市、南相馬市、本宮市、北塩原村、飯舘村



2018年9月13日 岩手県  
出席自治体：盛岡市、八幡平市、紫波町、遠野市、宮古市、陸前高田市、雫石町、山田町

※詳細は、内閣官房オリパラ事務局HP参照。  
[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020-suishin\\_honbu/hosttown\\_suisin/ikenkoukan.html](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020-suishin_honbu/hosttown_suisin/ikenkoukan.html)

※開催に先立ち、9月7日、被災3県の東京事務所長との連絡会（第2回）を開催。

# 第2回ホストタウン首長会議

- 2018年11月15日に総理大臣官邸にて、158のホストタウン自治体の首長等の参加の下、第2回ホストタウン首長会議を開催。同会議は、ホストタウンにおける更なる取組の充実・活性化に向け、同年6月6日に設立した。
- 6つのホストタウンの首長（「復興ありがとうホストタウン」の宮城県東松島市、「共生社会ホストタウン」の香川県高松市、「水球を通じた交流」に取り組む新潟県柏崎市、「日本庭園を通じた交流」に取り組む奈良県橿原市、「アフリカ・ギニアとの音楽交流」に取り組む鹿児島県三島村、「複数国と複数自治体間の交流」に取り組む福岡県）から、それぞれの特徴的な取組内容について発表いただいた。
- オリパラ事務局からはホストタウンにおける情報発信や飲食提供・文化イベント等について、組織委員会からはコミュニティライブサイト等について、最近の情勢に係る情報提供を行った。



2018.11.15 第2回ホストタウン首長会議

復興ありがとうホストタウンの発表  
(宮城県東松島市の渥美市長)

### 宮城県東松島市一特産の「海苔」の養殖を伝える産業文化交流

○2018年1月にデンマーク王国を訪問し、フレデリク王子殿下御見学の館、オリンピック委員会や震災後多くの交流いただいていた企業を訪問し、感謝の思いを伝えた。  
 ○2018年9月にデンマーク王国で開催された「食」をテーマにしたサマースクールに、本市を代表する産業である「海苔」養殖の技術や考え方を伝えるため、地元漁師を派遣し講義と意見交換を行った。参加者と夕食をとり、海の観察やデンマーク王国の食、音楽、文化、地産地消について視察を行い、様々な課題や意見交換を行うことで相互の理解を深めた。  
 ○2018年10月に、前後2回にわたって現地において「デンマーク王国を訪問」をテーマとした産業文化交流事業のPRと地元飲食店の協力でデンマーク王国のドリンクを作るワークショップを行い、デンマーク王国とのつながりを周知した。  
 ○2018年2月にはデンマーク王国の学生を招き、市内中学生宅でのホームステイや中学校への体験入学等を実施し、交流を始める予定。



全体写真

# 復興オリンピック・パラリンピックに係る政府の取組

— 2020年東京大会開催を契機に「被災地復興」を後押しする政府の取組について —

(平成30年7月27日 内閣官房オリパラ事務局・復興庁)

2020年東京大会は、復興オリンピック・パラリンピックと位置づけられている。

2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針（平成27年11月27日閣議決定）を踏まえ、関係各府省の復興オリンピック・パラリンピックに係る施策を確実に実行する観点から、別紙の取組を強力に進め、東日本大震災の被災地の復興を後押しするとともに、被災地が復興を成し遂げつつある姿を世界に発信する。

## ○被災地での競技実施に対する支援（スポーツ庁）

- 被災地において実施される競技の会場施設整備を支援する。ラグビーワールドカップ2019の会場施設整備についても同様とする。

## ○1964年東京大会の炬火台の巡回・展示（スポーツ庁）

- 1964年東京大会で使用された旧国立競技場の炬火台（現在宮城県に設置）について、今後、岩手県や福島県においても巡回・展示する。

## ○復興「ありがとう」ホストタウンの推進（内閣官房）

- 復興「ありがとう」ホストタウンの推進を通じて、これまでに支援を受けた国・地域へ復興した姿を発信するとともに、各地の取組を全面的に支援する。

## ○被災地へのインバウンドの促進（観光庁）

- 2020年の東北の外国人宿泊数を150万人泊とする目標のもと、地方公共団体が実施する滞在コンテンツの充実・強化等の取組を支援するとともに、日本政府観光局（JNTO）において東北に特化した海外主要市場向けプロモーションを集中的に実施する。

## ○被災地の産業支援（経産省）

- 東北地方の魅力ある地場産品などの地域資源をインバウンドを含め観光需要につなげる取組を支援する。
- Regional Business Conference（RBC）などを開催し、地域の魅力的なビジネス環境の対外発信を行う（福島県においては、医療関連産業の誘致をテーマとしたRBCを2018年度に実施）。
- 福島県において、世界最大級となる1万キロワットの水電解装置により再生エネルギーから製造した水素を2020年東京大会の際にも活用する。

## ○被災地の食材等の活用と風評の払拭（農水省）

- 2020年東京大会も契機として、安全・安心を確保した売れる農林水産物づくりを通じた被災地復興を図るため、生産者の第三者認証GAPの取得や有機農産物の生産拡大、水産エコラベルの取得等の取組を支援する。
- 各国・地域に対して科学的根拠に基づく輸入規制の撤廃、緩和の働きかけを粘り強く行うとともに、国内では、福島県産を始め被災地産食品の販売フェア等により風評の払拭を図る。
- 被災地における新たな花きの産地づくり等を支援するとともに、2020年東京大会における花きの活用を働きかける。
- 「森林認証材」について、被災地産のものも含め、2020年東京大会関連施設の木材としての活用を通じて、需要者等への普及を図る。

## ○文化プログラムの実施等による被災地の文化発信（文化庁）

- 被災地において引き続き文化プログラムを推進するほか、被災地を含む新たな大型文化イベントの開催に向けた検討を開始する。

## ○地域復興の意識を高めるオリパラ教育の推進（スポーツ庁）

- 全国で展開するオリパラ教育のうち、被災地においてはオリパラやスポーツを通じ、子どもたちの地域復興への意識を高める取組を推進する。

## ○被災地の情報発信強化（復興庁等）

- 被災自治体や関係機関と連携し、被災地が復興を成し遂げつつある姿を世界に発信する。

## ■第5回 I O C 調整委員会公式夕食会にて被災地産食材等の魅力を発信

2017年12月12日、第5回 I O C 調整委員会が開催される機会に、組織委員会、東京都、復興庁の共催で、夕食会を開催。

I O C 役員に対して被災地の食材を活用した料理や日本酒を提供したほか、各県のブースを設置し、地元産品を紹介。



## ■第1回ワールド・プレス・ブリーフィングセッションにて被災地の現状や被災地産食材の魅力を発信

2018年9月4日、組織委員会、東京都、復興庁の共催で、ワールドプレスブリーフィング公式レセプションを開催。

海外メディアに対して復興の現状をプレゼン、被災地の食材を活用した料理や日本酒を提供。



## ■フィンランド等において福島県産農水産物の安全性についての情報を発信

2018年9月5日から10日にかけて、吉野復興大臣（当時）が、フィンランド、アイスランド及び英国を訪問。

閣僚や国会議員等に対して、震災後の支援への感謝を伝えるとともに、福島県産農水産物の安全性を発信。



## ■A N O C 総会レセプションにて復興の情報を発信

2018年11月27日、各国オリンピック委員会連合（A N O C）の年次総会の中で開催された J O C 主催のレセプションに参画。

世界各国のオリンピック委員等に対して被災地の日本酒を提供するとともに、風評払拭に向けて情報を発信。



## ■Jヴィレッジにおいて復興スポーツイベントの実施

2019年1月19日、Jヴィレッジにおいて、読売新聞と復興庁の共催で、復興スポーツイベントとして野球教室を実施。

被災地の子供たちに、トップアスリートとの交流の機会を設けることを通じ、2020年東京大会に向けての気運醸成を図る。



## ■選手村等における被災地産食材の活用に向けた支援の実施

2017年から、福島県の農林水産物の再生に向けて、生産から流通・販売に至るまで、風評の払拭を総合的に支援する「福島県農林水産業再生総合事業」を実施。

福島県産農産物について、第三者認証GAPの取組を推進し、2020年東京大会への食材供給も視野に入れた情報を発信。

(復興予算・農水省執行事業、実施主体：福島県)

## ■在京大使館に向けた情報発信

主要国の在京大使館を訪問し、復興の状況や被災地での競技開催などの情報を提供。各国選手団、政府関係者、海外からの観戦客に対する復興の情報発信について、理解と協力を仰ぐ。

## ■「復興ポータルサイト」において復興五輪に関する情報を発信

復興庁ホームページの「復興ポータルサイト」を通じ、復興に関する情報を発信するとともに、復興五輪に関連するイベントや事前キャンプ等の情報を発信。



## ■復興五輪連絡調整会議を設置

2018年から、復興五輪の実施に向けて、岩手県・宮城県・福島県と関係機関で連絡調整を行うための会議を設置。これまでに2回開催し、競技大会の円滑な運営や、被災地食材の活用に向けたGAPの取得促進、復興の情報発信等について議論。

## ■ 被災地における競技会場の施設整備を支援

- ・ 福島あづま球場（野球、ソフトボール）
- ・ 宮城スタジアム（サッカー）
- ・ 茨城カシマスタジアム（サッカー）
- ・ 釜石鵜住居復興スタジアム（ラグビーワールドカップ2019）



福島あづま球場（野球、ソフトボール）

## ■ 1964年東京大会の炬火台の巡回・展示

1964年東京大会で使用された旧国立競技場の炬火台（現在宮城県に設置）について、今後、岩手県や福島県においても巡回・展示する。

## ■ 地域復興の意識を高めるオリパラ教育の推進

全国で展開するオリパラ教育のうち、被災地においてはオリパラやスポーツを通じ、子どもたちの地域復興への意識を高める取組を推進する。



石巻市立渡波中学校：石巻復興マラソン大会参加



宮城県石巻市に設置されている  
1964年東京大会の炬火台

### ■救援医療チーム派遣

平成23年3月28日～4月27日の期間で、岩手県大船渡市の避難所へ選手団ドクターと職員延べ38名によるJOC医療チームを派遣し、医師による内外科の診察のほか、トレーナーによるリハビリ、健康維持のための体操教室などを実施。



### ■救援物資

競技団体、国際オリンピック委員会等のスポーツウエアを中心とした衣類（1万点以上）を継続して搬送。

### ■メダリスト、オリンピックによる避難所訪問

岩手県大船渡市の避難所や学校などを慰問。

### ■オリンピックコンサートでのチャリティー活動

2011年のコンサートでアスリートによる募金活動を行う。

日本赤十字社に送金 6,999,187円

### ■JOC公式ホームページ等で競技団体とともに 救援募金

日本赤十字社に送金 41,054,024円

### ■寄付プロジェクト「エール FOR 日本」

日本財団とJOC共同寄付プロジェクトを設置し、総額59,283,543円の寄付を各種支援活動で活用

### ■JOCからの寄付

日本赤十字社に送金 10,000,000円

### ■海外からの支援

国際オリンピック委員会（IOC）  
IOCつばさプロジェクトによる各種支援  
アジア・オリンピック評議会（OCA）  
各国・地域のオリンピック委員会

### ■第26回ユニバーシアード競技大会で支援への 感謝メッセージを発信

日本代表選手団が「がんばれ！ニッポン！～スポーツから生まれる、笑顔がある」のスローガン腕章を付け参加。各国・地域の支援活動に対する感謝を伝える。



**がんばれ！ニッポン！**

スポーツから生まれる、笑顔がある。

■ 被災県に在籍する若手選手を国際競技大会に派遣

- ・ 冬季ユースオリンピック (2012 / イスラエル)
- ・ 夏季オリンピック (2012 / ロンドン)
- ・ 冬季オリンピック (2014 / ソチ)
- ・ 夏季オリンピック (2016 / リオデジャネイロ)
  - \* 大会派遣は行わず結団式・壮行会に招待
- ・ 冬季アジア大会 (2017 / 札幌)
- ・ 冬季オリンピック (2018 / 平昌)
  - \* 札幌大会より熊本県からも派遣

■ 応援ありがとうIN東北 (オリパラ合同パレード等)

2012年ロンドンオリンピック・パラリンピック終了後に選手団への応援に対する感謝をこめて、日本で初めてのオリンピックとパラリンピック合同パレードとイベントを仙台市内で行い、併せて岩手、宮城、福島の前3県の仮設住宅、学校等を訪問し、選手たちが直接お礼を伝えた。



■ メダリスト、オリンピックによる復興支援ソング「花は咲く」映像の発信とオリンピックデーフェスタでの合唱

リオデジャネイロ、平昌オリンピック・パラリンピック大会のメダリストと入賞者が復興支援ソング「花は咲く」を合唱し、NHKの映像を通して応援への感謝と被災者への激励のメッセージを発信した。

\* IOCバハ会長とIOCスタッフも参画



がんばれニッポン!

スポーツから生まれる、笑顔がある。

■ **オリンピックデー・フェスタ** ～スポーツから生まれる、笑顔がある。～

<実施内容>

① 運動会形式

オリンピックと参加者が5チームにわかれ、一緒に体を動かしスポーツをする楽しさを体感していただくプログラム。

② オリンピアンとのQ&A

③ オリンピアンサイン会

④ 復興支援ソング「花は咲く」合唱

⑤ オリンピアンによる被災地訪問

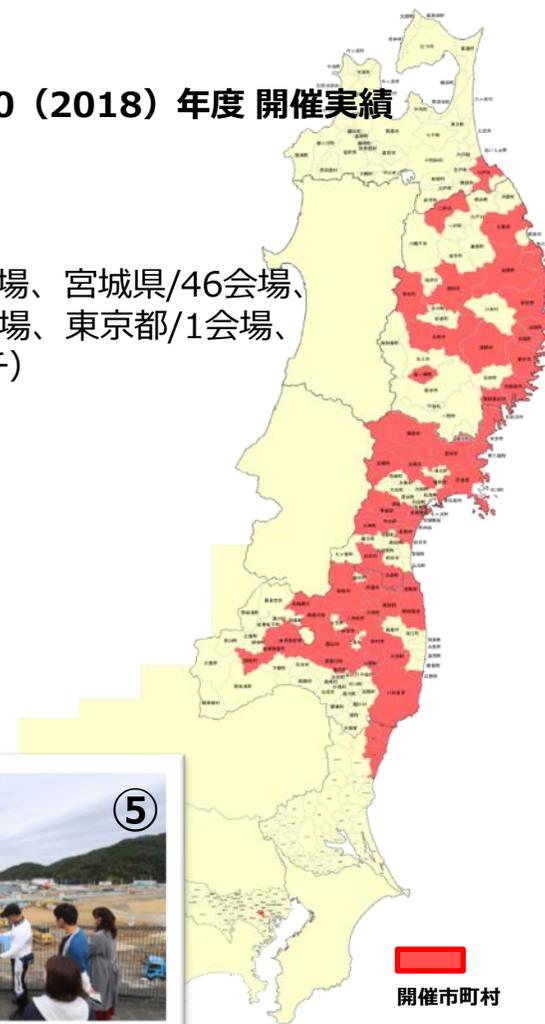
平成23（2011）年度～平成30（2018）年度 開催実績

参加人数 : 21,864人

参加選手 : 延べ764人

開催会場 : 137会場

青森県/4会場、岩手県/43会場、宮城県/46会場、  
福島県/38会場、茨城県/3会場、東京都/1会場、  
国外/2会場（ロンドン、ソチ）



## ■ リオ2016パラリンピック競技大会壮行会 におけるビデオメッセージ

2016年8月2日に開催した日本代表選手団壮行会において選手へ向けたBIG YELLとして、被災地からのビデオメッセージを放映した。



## ■ 東北地区での競技大会開催

2017年9月23日から24日の間、福島県とうほう・みんなのスタジアム（県営あづま陸上競技場）において、当協会が主催する2017ジャパンパラ陸上競技大会を開催した。



## ■ 共生スポーツ祭りの開催

2017年5月3日から5日の間に行われた共生スポーツ祭りにおいて、東日本大震災の復興支援の一環として東北の物販・マルシエを企画した。（日本車椅子バスケットボール選手権のサイドイベントとして開催）



## ■ ジャパンスポーツフェスタin岩手を開催

2017年11月11日、ふれあいランド岩手において、当協会、日本スポーツ協会、日本オリンピック委員会の共催によるイベントを開催した。シッティングバレーボールの体験やオリンピック・パラリンピアンによるトークショーなどが行なわれた。



## スポーツの力で被災地を元気に

### ■ スポーツ交流事業

平成23年度から、被災地の少年少女スポーツ団体・チーム等の東京への招待を実施。合同練習、交流試合などスポーツを通じて東京の少年少女と交流。



福島県との交流試合

### ■ アスリート派遣事業

平成23年度から、被災地にアスリートを派遣。スポーツ教室等の開催を通じて、小中高校生がトップアスリートから指導を受け、身体を動かす機会を提供。



いわて大運動会 in 気仙

### ■ 未来（あした）への道1000km縦断リレー

平成25年度から、青森から東京までつなぐリレーを通じて、復興へ向けた取組や被災地の現状などを発信。東日本大震災の記憶の風化を防ぎ、全国から集まる参加者と被災地の方々の絆を深めている。



宮城県でのリレー

### ■ 風化防止イベント

平成27年度から、都民に対して、東日本大震災の風化防止及び支援の継続を呼びかけるイベントを開催。イベントでは、県産品・郷土料理の販売のほか、東京2020大会を通じた復興支援に関するブースも設置。



## 東京2020大会を通じた復興の後押し

### ■オリンピック・パラリンピック フラッグツアー

全国巡回開始に先駆けて、大会組織委員会と共催で、東北三県及び熊本県でフラッグツアーを実施。被災地に元気をお届けした。



フラッグ歓迎イベント  
(福島県)

### ■被災地でのライブサイト

リオ2016大会、平昌2018冬季大会に合わせ、大会組織委員会と共催し、被災地でライブサイトを実施。競技生中継のほか、各地域の団体によるステージイベントも行った。東京2020大会においても同様の取組を予定。



平昌2018冬季大会時の  
ライブサイト (宮城県)

### ■被災地復興支援映像

平成28年に東北三県、平成30年に熊本県の復興支援映像を制作。

ジャパンハウスやライブサイト等で上映するとともに、都立学校オリンピック・パラリンピック教育でも活用。今後、大会本番を見据えて更新を予定。



### ■海外メディアによる被災地取材ツアー

平成30年9月、大会組織委員会が実施するメディア向け事前説明会にあわせ、海外メディアによる被災地への取材ツアーを実施。現地でしか伝わらない被災地の現状や復興状況を全世界に向けて発信。



「スポーツ笑顔の教室」  
取材風景 (宮城県東松島市)

## 東京2020大会に向けて今後検討していく取組（案）

**各事業の詳細は今後調整****■被災地子供観戦招待**

東北三県及び熊本県のジュニアアスリートや各地域の代表となる子供達を、東京2020大会の観戦に招待する取組について検討。  
大会の感動を肌で感じていただくとともに、観戦と併せたボランティア体験やアスリートとの交流といった活動なども通じて、東京2020大会が「心のレガシー」となることを目指す。



観戦イメージ

**■復興祈念植樹**

東北三県及び熊本県の復興のシンボルとなる樹木を、大会に向けて都が新設する競技会場へ植樹する取組について検討（場所は有明アリーナを想定）。  
「復興オリンピック・パラリンピック」を大会期間中に来場した方々へ発信するとともに、その理念を後世に伝えていく。



有明アリーナ外観イメージ

聖火リレー

■宮城県において、オリンピック聖火の到着式を実施

ギリシャで採火されたオリンピック聖火は、2020年3月20日に、宮城県の航空自衛隊松島基地に到着し、到着式を実施



(C) 2017 / International Olympic Committee

■被災地での「復興の火」の展示

東京2020オリンピック聖火リレーの開催に先立ち、ギリシャで採火した火を「復興の火」として、被災3県（岩手、宮城、福島）で順次展示。

■被災地でのオリンピック聖火リレー実施

被災3県（岩手、宮城、福島）については、日数の配慮をし、オリンピック聖火リレーを各県3日ずつ実施



■被災地での競技開催

「サッカー」を宮城スタジアム、「野球・ソフトボール」を福島あづま球場にて一部競技を実施することが決定した。



■復興モニュメント（仮称）の設置

被災地の中高生の参画により制作したモニュメントを大会の関連施設に設置予定。大会後は三県への移設を打診中。



■開閉会式の全体コンセプトの一つに「復興」

開閉会式の8つの全体コンセプトの一つとして、「復興」を掲げる。

■被災地メディアツアーの企画【予定】

インバウンド促進につなげるために、旅行会社が催行する被災3県（岩手、宮城、福島）の復興しつつある姿を視察するツアーへの協力をする。

リオ2016

■ リオジャパンハウスでの発信

世界中から多くの人々が東北を訪れるきっかけとなり、また復興をより一層進める一助となるよう、元気を取り戻しつつある東北の現在の姿を世界の方々に知っていただくための映像やパネル等で紹介。



■ リオ2016大会フラッグハンドオーバーセレモニーでの発信

リオデジャネイロ2016オリンピック・パラリンピック閉会式のフラッグハンドオーバーセレモニーにて、被災地の子どもたちによる「ありがとう」等の人文字を映像を放映。東日本大震災の際の、世界中からの支援に対し、感謝の気持ちを伝えた



■ 被災地でのライブサイト実施

リオ2016大会、平昌2018大会に合わせ、東京都と共催し被災地でライブサイトを実施。イベントでは競技中継のほか、被災県の文化ステージも行った。東京2020大会においても同様の取組を予定。



■ 東京2020参画プログラムを通じた機運醸成

2017年8月14日（月）、福島県いわき市で行われた「いわき回転やぐら盆踊り大会」に参加し、地元の方々とともに「東京五輪音頭-2020-」を踊り、被災地での機運醸成を行った。



## ■第5回IOC調整委員会 公式夕食会にて、被災地の魅力を発信

2017年12月12日 第5回IOC調整委員会の公式夕食会で、東京都、復興庁とともに、被災県の食材を活用したメニューや琴の演奏でIOCをもてなした。また、被災県のブースを設置し、県産品を紹介するなど、被災地の魅力を発信した。



## ■第1回ワールドプレスブリーフィングレセプションにて被災地の食と文化を発信

2018年9月4日、東京都、復興庁の協力のもと、国内外メディアに対し、被災3県の食材を使った料理を振る舞い、被災地の食の魅力を発信した。



## ■飲食提供に係る基本戦略内に「飲食による復興支援」

2018年3月に発表された、「飲食提供に係る基本戦略」で「被災地食材を活用したメニューを提供、高品質の食材を生産できるまでに復興した被災地域の姿を発信」と「被災地食材の安全性の適切な情報発信」を掲げる。

## ■東京2020NIPPONフェスティバルでの発信

2020年5月から7月にかけて東北復興をテーマに、東北各県と連携し、東北各地・東京を舞台とした文化プログラムを展開。国内外へ東北の現在の姿を発信

## ■東京2020参画プログラム 文化オリンピックナイトの実施

2017年11月26日、東京駅前において、「1000 Days to Go!」キャンペーンの一環として、様々なアーティストが集った一夜限りの特別な文化イベントを実施。被災地の高校生も参画し、アーティストたちと共演した。



## ■被災地での理事会開催

2018年7月30日に福島県内、ナショナルトレーニングセンター「ヴィレッジ」にて理事会を開催し、被災地と連携した組織委員会の取組を報告するとともに、理事会に先立ち、被災地復興の取組について、復興大臣、福島県知事、岩手県副知事、宮城県副知事との意見交換会を実施した。



## ■500日前期間中に競技体験イベントの実施【予定】

2019年3月、福島県と共催で競技体験イベントの実施を計画。



(イベントイメージ)



(イベントイメージ)

## ■被災地への東京2020マスコット訪問

被災3県におけるスポーツイベント等にオリンピックマスコット「ミライトワ」とパラリンピックマスコット「ソメイティ」が参加し、子供たちをはじめとする住民の方々と交流した。

